

中学生のための

統計教室



島根県統計教育推進協議会

島根県統計協会

表紙題字 桐 山 優 子

表紙写真

宅野子ども神楽を演じる
仁摩中学校の生徒の皆さん

(写真提供 宅野子ども神楽保存会)

本書を無断で複写複製することを禁じます。

中学生のための

統計教室



加茂町の加茂岩倉遺跡から出土した銅鐸

(写真提供：加茂町教育委員会)

インターネットを利用したグラフ作成

統計局

統計局



統計センター

Welcome to STATISTICS BUREAU
&
STATISTICS CENTER

ようこそ!

センター

総務庁 統計局
統計センター

ホームページへ

総務庁統計局のホームページ

平成7年国勢調査
全国都道府県市区町村別人口(推計表による人口)
結果の概要(要約)
平成7年1月2日公表

- 我が国の人口は1億2557万人、世界で8番目
 - 平成7年国勢調査による10月1日現在の我が国の総人口は、1億2557万人(男子が6339万人、女子が6218万人)で、世界で8番目に多い国となっている。
 - 平成2年〜7年の5年間に人口は190万人増加、増加率は1.4%で、戦後最低となっている。
- 東京都が人口減少に転じ、その近頃の人口増加率も大きく低下
 - 全国の都道府県のうち、人口の7割は10都府県で、200万人を超えている。
 - 平成2年〜7年の5年間の人口増加率は、埼玉県が5.5%で最も高く、以下、富山県4.5%、千葉県4.3%、滋賀県4.0%と続いており、全国最低の人口増加率となった。人口減少の数は、昭和6年〜平成2年の5年間の増加から、ほぼ完全に減少している。
 - 昭和6年〜平成2年の5年間に比べ、2年〜7年は東京都の増加率が神奈川、埼玉及び千葉の人口増加率に大きく近づいている。また、人口が増加した中で、東京都及び神奈川、千葉、埼玉の増加率の差が大きかった。人口増加率が減少したにもかかわらず、ほとんどの都府県で減少率が縮小した。
- 東京都特別区、大阪市、北九州市では引き続き人口が減少
 - 全国231市町村のうち、平成2年〜7年の5年間に人口が増加したのは104市町村(45.1%)、減少したのは127市町村(54.9%)で、人口増加の市町村の割合は半減している。
 - 平成2年〜7年の5年間に東京都特別区、大阪市、北九州市では昭和6年〜平成2年に引き続き人口が減少し、神戸市、広島市の人口も減少となった。また、徳島市も同様に、札幌市などの人口増加率が低下している。
- 1世帯当たり人員は引き続き減少
 - 我が国の世帯数は1467万世帯で、平成2年に比べ104万世帯、7.4%増加した。1世帯当たり人口は22.45人で、引き続き世帯規模の縮小が続いている。

必要な統計情報を呼び出す

ダウンロードしたデータを表計算ソフトで見る。

表計算ソフトに取り入れた資料

表2 我が国の人口の推移(大正9年〜平成7年)

年次	人口(1000人)	5年間の人口増加		年平均人口増加率(%)
		増加数(1000人)	増加率(%)	
大正 9年(1920年)	55 963			
14年(1925年)	59 737	3 774	6.7	1.3
昭和 5年(1930年)	64 450	4 713	7.9	1.5
10年(1935年)	69 254	4 804	7.5	1.4
15年(1940年)	71 933	2 679	3.9	0.8
20年(1945年)	72 147	780	1.1	0.2
25年(1950年)	84 115	11 052	15.3	2.9
30年(1955年)	90 077	5 959	7.1	1.4
35年(1960年)	94 302	4 225	4.7	0.9
40年(1965年)	99 209	4 908	5.2	1.0
45年(1970年)	104 665	5 455	5.5	1.1
50年(1975年)	111 940	7 274	7.0	1.4
55年(1980年)	117 060	5 121	4.6	0.9
60年(1985年)	121 049	3 989	3.4	0.7
平成 2年(1990年)	123 611	2 562	2.1	0.4
7年(1995年)	125 569	1 957	1.6	0.3

資料：国勢調査の結果による。ただし、昭和20年は昭和20年人口調査の結果による。
注) 昭和20年、25年の人口と20年〜30年の増加数及び増加率にはとから列島を含まない。
昭和20年〜40年の人口と20年〜45年の増加数及び増加率には小笠原諸島を含まない。
1) 内地外の軍人・軍属等の推計数を差し引いた補正人口。
2) 沖縄県を含まない。
3) 軍人及び外国人の推計数を加えた11月1日現在の補正人口。

国勢調査人口の推移



データをグラフにする。

使用ソフト

- ※インターネット用ソフトは、Netscape Communications CorporationのNetscape Navigator(ネットスケープ ナビゲーター)
- ※表計算ソフトは、Microsoft CorporationのExcel(エクセル)
- ※グラフを作成したソフトは、Lotus Development CorporationのFreelance(フリーランス)
(会社名と製品名はそれぞれ各社の登録商標または、商標です。)

中学生のみなさんへ



「島根県の人口と鳥取県の人口はどちらが多いのか」とか、「私たちの生活は5年前に比べてどの程度よくなっているのか」というように、2つの状態を比べてみたくなることがよくあります。

このような比較は、個人的な興味で行われるだけではなく、行政、企業、個人が行動するための情報として必要なものです。統計はこのような問題に回答を与えてくれる有力な情報です。

この本は、統計の作り方や利用方法についての必要なことから、島根県の例を多く用いながら、分かりやすくまとめています。

私は、この本の勉強が、皆さんの将来にとって役立つものであると確信しています。

統計審議会会長

経済学博士 溝口敏行

この本を使うみなさんへ

みなさんは、日常生活でいろいろな情報を得る手段として、新聞・テレビ・雑誌などを利用したり、また一部では、インターネットなどに代表される最新の方法を利用して、情報を得ていることと思います。

これらに載っている情報には、統計表や統計グラフが多く取り入れられています。私たちはそれらの情報を使っていろいろなことを計画したり、ものごとを調べ確認して、暮らしを合理的にむだがないように役立てています。

この本は、みなさんが3年間をとおして学習する「統計」を、よく理解していただくため、昭和56年に刊行したものです。

このたび、本文中に使われている統計資料などをできるだけ新しいものとししましたので、毎日の学習や日常生活で、いつも身近において利用してください。

この本をいろいろな勉強に役立てて、将来りっぱな社会人になっていただくことを願っています。

島根県統計協会会長 江口博晴

目 次

第 1 章 生活と統計 ————— 4

- 1. 統計の意味と役割 …………… 4
 - (1) 統計の意味 …………… 4
 - (2) 統計の役割 …………… 5
- 2. 統計の活用 …………… 6
 - 例. 金魚の呼吸数は
水温によってどう変わるだろうか …………… 6

第 2 章 統計調査（集める）————— 12

- 1. 統計材料の収集 …………… 12
- 2. 統計調査の順序 …………… 15

第 3 章 統計の分類と集計（まとめる①）————— 17

- 1. 分 類 …………… 17
 - (1) 分類の意味と原則 …………… 17
 - (2) 分類の種類 …………… 18
- 2. 集 計 …………… 21

第4章 統計表と統計グラフ（まとめる②）————— 22

1. 統計表と統計グラフの長所と短所	22
2. 統計表	23
(1) 統計表の形式	23
(2) 統計表を作るときの注意	24
3. 統計グラフ	25
(1) 統計グラフの種類	25
(2) 統計グラフの作り方	25
(3) 使用目的による分類	38
(4) 統計グラフ作成の順序	39

第5章 統計の見方・考え方・使い方（読みとる）————— 41

1. 統計分析の手法	41
2. 度数分布の分析	42
(1) 度数分布表と度数分布図	42
(2) 代表値	47
(3) 散布度	53

3. 比率の分析	57
(1) 構成比率	57
(2) 発生比率	58
(3) 対立比率	58
(4) 指標比率	59
4. 標本調査の基礎	60
5. 統計を見たり, 使ったりするときの注意	62

第6章 インターネットといろいろな統計情報 64

1. インターネットを使っての統計情報収集	64
2. 国でつくられている主な統計資料	67
3. 県でつくられている主な統計資料	69
4. 統計資料の収集	69